



9月16日朝5時半、槍ヶ岳山荘飛弾乗越寄りの岩山より感激の御来光を拝み、写真にとる。食事後、槍ヶ岳頂上往復(約10分)してから、7時25分出発。

日本一高い飛弾乗越へ5分で行く。アベ部より急登し、大食岳のヒコウの間の凹部に出る。岩くすにあまわした中、尾根歩きで中岳に向う。

今日は槍ヶ岳の登頂も最初に穂高岳山荘まで3000M級の54峰の登降だ。奥穂・西穂に次ぐ日本屈指の大縦走が始まる。天気快晴、気分上々。46.10.1霧雨とガスの中を兄と縦走したときは視界数メートル。どこまで歩いたのかたまた夢中で、7時間小屋へ着いたが、今日はゆっくり滝谷を見物し、記録して歩こう。

A沢のコルより少し登ると、「飛弾泣き」にかかる。滝谷の岩場を眼下に足のすくむような切水込みは、すばらしい眺めだ。この付近縦走路の難所で、飛弾・信州側と交互に巻き、岩稜やリッジを覗き込みながらの登はんである。急がず確実に三点支持法で行く。

9月16日16:33無事着く穂高岳山荘
③ 3400%

ロッジからの道もよく整備され1~1.5時間で登りは少しづつつくくなるが、ダケカンバや茶カサの石を踏んで行く。赤沢山の太ガレを覗き見上げ更に登って、石固の小屋跡に出る。

今日は各駅停車、山の気分も十分味わいながらコースの調査も含めてノンビリムード。ニノ俣の吊橋を渡り、野菊を写す。道は川に沿って狭くなる。ゆづり登り道は槍ヶ岳ロッジに近く、急坂になって右へ回り込むとロッジが見えてくる。

一ノ俣の手前へ、樹林帯から飛び出ると、パーッと開けた二又の明る沢のふちへ出る。先客はすっかり乾いた石の上で多勢休憩している。もうコッヘルでお湯を沸かしているパーターもいる。

雲が切れた蒼い空と誰もが喜びに満ちた笑顔で仰いでいる。休憩に行こうか、沢から吹き上げる風が気持ちいい。「この調子なら今日は槍まで行けるぞ」

横尾よりは、川筋に入り、道が1~1.5とグッと狭くなり、熊笹の間を行く。登山者もふえ、雨も止み足取りも軽いの。